

秋田市大森山動物園での研修を終えて

国際動物専門学校飼育調教学科1年 菊地 香有

今年動物専門学校入学後の動物園見学で、動物の飼育状況がとても悪く、ショックを受けました。子供の頃は深く考えませんでした。自分が動物について学ぶようになって、狭い檻で展示されている動物達が不憫に感じました。そこで「外から見た動物園」と「中の動物園」がどう違うのか確かめようと、幼い頃に行った大森山動物園での研修をお願いしました。

研修の最初は、ふれあい班を担当させて頂きました。羊・馬の削蹄やポニーの曳き馬の他、ふれあい広場で接客もしました。お客さんから質問を受けましたが、答えられない事もあり、自分の知識の無さを痛感させられました。草食動物班では、ゾウの調教で、ゾウはもちろん、担当の方の真剣な迫力に圧倒されました。乾草や汚物の運搬など、体力的には草食動物班が一番きつかったです。また、シマウマの交尾をしそうな現場なども見学出来ました。猛獣班では、ライオンやトラに生き餌の鶏をあげた時、弱肉強食を目の当たりにして少しショックでしたが、動物達の野生的な面を間近で見る事が出来てとてもワクワクしました。獣医班では、ビーバーの過長歯切除やウサギの去勢で助手をさせて頂き、とてもいい経験になりました。私は獣医班の研修が一番興味深く楽しかったです。

研修では、その場にいたからこそ経験できた事が心に残っています。しかし、毎日の作業の中では地味な掃除や給餌が、本当はとても大切だと感じました。毎日動物の表情や行動を、「いつもと違うところは無いか。」と一頭ずつチェックすることの重要さがわかりました。また、餌作りもとても細やかで、本当に動物のことを考えているんだと実感しました。

今回の研修は、私の動物園に対する思い、考えを変えられた機会だったと思っています。とても良い経験・勉強になると共に、動物を扱う仕事の厳しさを改めて感じました。自分の仕事としてやっていこうという自信はまだありませんが、動物について、自分について、これからよく考えていきたいと思っています。

ありがとうございました。



▲飼育実習中の菊地さん

動物病院から

海外研修から学んだもの

飼育展示担当（獣医） 三浦 匡哉

昨秋、秋田県市町村職員海外視察研修に参加し、オーストラリア・ニュージーランドを見るチャンスがありました。役所などの行政視察の他、ボランティア団体との意見交換等多岐に渡って学ぶことができました。

研修及び自由行動でオーストラリア・シドニー水族館とフェザードルワイルドライフパーク（以下、FWL）、ニュージーランド・オークランド動物園（以下、AZ）を見学したので、感じたままに記します。

オーストラリアでは当然ですが、我国では動物園でしか見られない動物（コクチョウやワライカワセミ等）が野生で普通に暮らしています。FWLは基本的にオーストラリアの動物だけを展示している施設です。カンガルーやワラビーなどがあちこちで放し飼いにされており、お客さんとふれあう場面を見ることができます。コアラもとても近い距離で見ることができ、体を撫でながら記念撮影ができるなど、日本では考えられない光景が印象的でした。ニュージーランドでも感じましたが、お客さんと動物との距離がとても近いのに驚きました。また、生態展示を多く取り入れ、動物たちが生き生きと生活しているのが伝わってきました。さらに、展示方法にも工夫を凝らして、何時間いても楽しめる動物園でした。

滞在中、AZには2回訪れました。余談ですが、前回のことを覚えていたスタッフが、忙しい中、わざわざ動物園の獣医さんを紹介してくれました。そして、彼は見知らぬアジア人を信用して動物病院を案内してくれたのです。この感動はとても言葉にはできません。元来哺乳類やヘビがいないニュージーランド、病院では外国から搬入したものを始め、動物の検疫をととても厳密に行っていました。また、ここは国鳥であるキウィの繁殖センターとしても重要な役割を担っています。

大森山動物園とこれらの動物園を単純に比較することはできません。良い部分を吸収し、さらに応用発展できればと考えています。



▲オークランド動物園の一コマ
お客様と動物を近づける工夫